# 附属京都中学校のネットワーク・コンピュータ利用

附属京都中学校　上西　好悦

京都中学校では図１及び図２の様なコンピュータ環境を得ました。

これらを活用することで新しい中学校学習指導要領にある、「各教科等の指導に当たっては，生徒がコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用できるようにするための学習活動の充実に努めるとともに、という内容に、今後迫っていきたいと考えています。

コンピュータを利用した学習をすすめるにあたっては、生徒のリテラシーが必要となってきます。

リテラシーの内容についてあげると、

・コンピュータの起動終了
・マウスの操作
・印刷
・プリンターの取り扱い
・ソフト操作（ワープロ，画像処理，表計算）
・ワープロ（文字入力，文字の装飾，画像の貼り付け，データの保存，印刷）
・画像処理（デジカメで取った画像を加工，処理，印刷，保存）
・表計算（グラフの作成）

という従来型の内容の他にもインターネットの関係も重要となり、

・サーチエンジンによる情報検索（登録式，機械式，複数検索語等）
・情報の保存，ペースト，コピー，印刷
・有害情報への考え方
・メールソフトの操作
・ネチケットの指導
・簡単なＨＰ作成による情報発信

とかなり多くなります。

生徒の現状は、個人的に家庭で十分に慣れ親しんでいる者とそうでない者、小学校段階でコンピュータに触れてきた学年とそうでない学年というように多様です。

生徒リテラシーとして最低限必要な内容としては、とにもかくにもコンピュータの起動、そして終了でしょうか。同様にソフトの起動と終了が正しくでき、マナーというか、使用後の机上整理もコンピュータ室の保守の面からも必要です。このあたりの指導については、技術科３年次の情報基礎の習得を待っていては無理があるということで、１年次から技術の授業にてコンピュータの利用を進めています。

一方、本校の総合学習の取り組みでは、従来からもインターネットを利用して情報を得る手段が取り入れられ、「総合学習ではコンピュータを利用するのも１つの手段」という意識が既に何人かの生徒にも定着していたようです。本年度の総合学習の時間においては「インターネット環境が整った」ということでコンピュータ室の利用希望が殺到し、先述の生徒リテラシーを並行して

実施しながら、総合学習の時間に生徒たちは情報の収集にあたりました。コンピュータ及びコンピュータ室の利用は、飛躍的に高まったと言えます。

コンピュータを活用し学習活動の充実に努める為に、教師のリテラシーも大切なポイントとなります。後期の職員研修にコンピュータ研修を組んでいただき、生徒リテラシーのプログラムをたどりながら、より実践的な内容を組みたいと考えています。

校内では各教科の部屋に教師用コンピュータが設置されているものの、実際は個人所有のワープロ利用が多いようです。そこでひとつはインターネットを誰もが活用できることを目標に、はじめにホームページからの情報収集の楽しさを知っていただきます。得た情報を教材研究や教材作成に積極的に利用していただこうというねらいです。

また校内ＬＡＮを利用して、メールによる連絡も日常化していきたいと考えています。それに向けて全員が@kyokyo.u-ac.jp のメールアドレスを取得する予定です。

ＣＭＩとしては成績処理の研修を実施し、コンピュータ利用の有効性を体感していただくことを考えています。いきなり市販の表計算ソフトの利用を研修すると、どうしても「コンピュータは難しい」という印象を持たれることでしょう。教師がその様な思いを持つとどうしてもコンピュータ活用は滞ってしまいます。ここでは観点別の集計も考慮された成績処理用のソフトを利用する計画です。

今回は更に教育大と附属校間のネットワークが構築されました。早速、本校でテレビ会議システムを利用する形で理科部会が実施されました。この学校間ネットワーク利用については、附属校間で積極的に連絡を取り合って活用させていただきたいと考えています。今後とも宜しくお願いいたします。

図１．附属京都中学校　コンピュータ室及び同準備室の機器配置（概略）

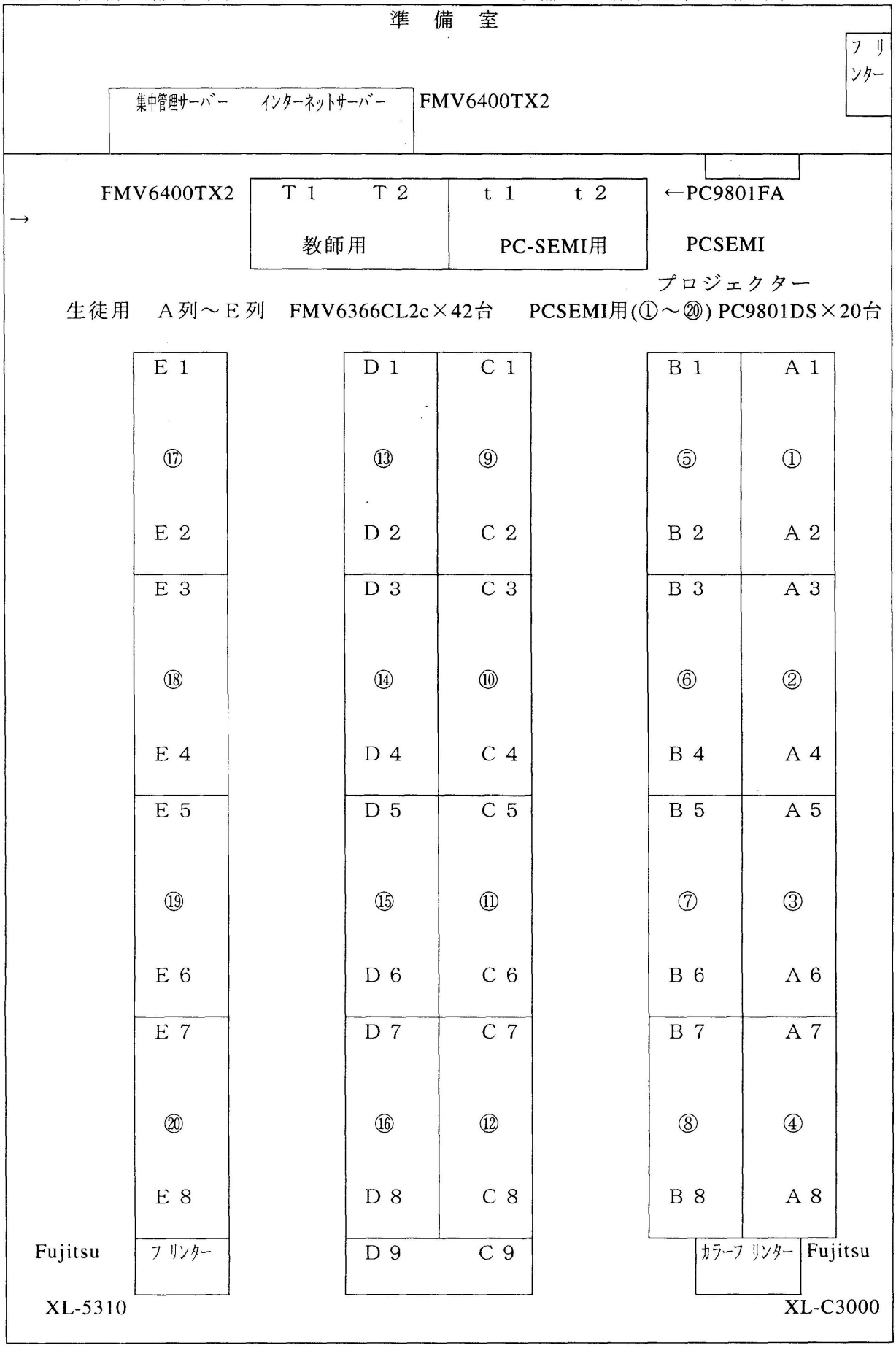


図2．コンピュータ室の概観



京都教育大学　機関リポジトリ　クエリの森




この文献は、国立情報学研究所において電子化されたものを、本学でテキスト加工したものです。